

北斗市地域公共交通計画（案）に関する  
パブリックコメントにおける意見の概要と市の考え方

【意見 1】

意見の内容	市の考え方
<p><b>【停留所の変更について】</b></p> <p>北斗市公共交通循環バス運行発足時より乗降停留所（行き、帰り）は昭和町内市道に置かれており、学生、身障者、高齢者、谷好一丁目、昭和二丁目の住民不便なく利用してましたが、令和元年頃の運行改定により 228 号国道のバス停に変更になり、大変不便を強いられる状況と成りました。</p> <p>理由として、1. 国道の停留所へ行くのに谷好一丁目の住民、昭和二丁目の住民、当昭和の住民遠距離となり、2. 国道へは階段を利用しなければいけません、身障者、高齢者は大変、3. 富川会館行きの帰りの降りる場所は国道海側ですので横断しないと帰れません、交通事故に遭遇します。</p> <p>特に、昭和の方に目の不自由の方がせせらぎ湯へ行くのに利用しておりまして、令和の改正変更から上磯駅前お菓子屋さん前まで歩いて行き、冬道などは方向感覚が解らなくなって、別の方角へ歩いているので導いてあげて欲しいです。</p> <p>よって、このたびの計画においては従来のように昭和町市道へ乗降停留所を置いて頂きたいと要望いたします。</p> <p>希望する設置場所は、市役所方面行きは佐々木博史宅から亀谷宅間の空き地前、帰り富川会館行きは元キクヤ薬局店と元スナックマコ間の空き地角への設置をお願いを致します。</p>	<p>新函館北斗駅・上磯線バス（旧南北市街地連絡バス）は、平成 18 年の合併後、上磯地区と大野地区の市街地を直接的に結ぶ路線がない状況であったことから、両市街地間を効率的な経路で運行する公共交通として、平成 20 年 4 月より運行しています。</p> <p>また、冬季には、上磯中学校生徒の通学利用を想定し、朝・夕の便については、起終点を富川会館前及び七重浜 8 丁目として、利便性を高めています。</p> <p>さらに、平成 28 年 3 月の北海道新幹線開業後は、従来の区間及び経路を基本としつつ、市民のみならず、市外からの旅行者等の市内移動を可能とするため、新たな交通拠点である新函館北斗駅から上磯地区への二次交通機能を備えた路線（新函館北斗駅・上磯線）の運行を平成 30 年 11 月から行っています。</p> <p>ご意見いただきました停留所については、平成 30 年 11 月からの新函館北斗駅・上磯線バス運行開始にあたり、上磯側の起終点を従前の運動公園から富川会館へ変更したことにより、バスの速達性を考慮した結果、停留所の位置を市道から国道に変更したものです。</p> <p>本計画の基本方針において、「地域住民が安心して利用できる公共交通の確保・充実を図る」としていることから、今後、バス停をより利用者の使いやすいところへ変更するという見直しを検討してまいります。</p> <p>また、本計画の施策として「利用者ニーズに対応した幹線補完旅客運送サービス（フィーダー系統）の構築」を掲げており、施策の詳細を検討する際にも、頂いた意見を踏まえて参りたいと考えております。</p>